

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	西淀川区南西部地域包括支援センター
提出日	令和 6 年 6 月 25 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）						
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等						
	☐ その他（ ）							
活動テーマ	認知症に関して、地域・専門職向けの講演会だけでなく、地域と専門職とともに学ぶ機会をつくる							
地域ケア会議から 見えてきた課題	本人と養護者の認知機能・身体機能の低下が進み、介護が困難な状況を理解せず不適切な介護につながっている。 認知機能や判断力の低下により、近隣からの苦情や心配の声につながっている。							
対象	地域住民および専門職							
地域特性	・地域活動の活発化に伴い、外出を控えていたひとり暮らしの高齢者が活動を再開したせいか、地域から「気になる高齢者」の相談が増えた。特に団地等が目立った。 ・地域の専門職については、区内で開催される研修会などをみても訪問介護事業者や通所サービス事業者等の参加が少ない。							
活動目標	・専門職が研修や講演会に参加して認知症・介護等の理解を深めることができる。 ・地域住民が認知症、特にかわわり方等の理解を深めることができる。							
活動内容 (具体的取組み)	①専門職向け：区内の専門職に広く周知し、認知症ケア研修会を開催。 ②地域住民向け：町会関係の会議の場で「団地では高齢化して認知症について気になる人がいる」という声があったこともあり、団地の総会時に「認知症の人への地域からの気づきや見守り、かかわり方」を中心に研修会を開催した。 ③地域住民と専門職向け：「ご自身の今後、大切な人の幸せ いきいき・はつらつに過ごすためには？」というテーマで共に輪になって語ろう会を開催した。							
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①三師会、病院、在宅関係者等医療、介護関係で幅広い参加者があった。 地域包括ケアを維持するために、若年性認知症の知識、フレイル対策の有無による出現率や精神的サポートと薬などデータに基づいた内容が中心で、専門職として認知症に関する必要な内容であった。そのため、アンケートからも医療、介護それぞれの立場で心に残る言葉があったと回答を得た。 また質問の時間を多めにとったことも好評の一因となった。 ②③の共通点として、「早い時期から、自分あるいは大切な人（あるいは地域で）の幸せを考えるために」をテーマに、「西淀川区〇〇に～よん参考書」を活用し、理解を深める機会をつくることができた。 地域住民からは、「知らないから不安になる」「この研修会は前からしていたのか、知らなかった」「顔が見えると、そこに相談にいらいたいとわかるので、また参加したい」など声をいただいた。 ③では、「ご自身の今後をいきいき・はつらつ過ごすためには？」について、地域住民と専門職が同じ輪の中で意見をだしあう時間もつくれた。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>①専門職向け</td> <td> 【認知症講演会】 タイトル：「～コロナに負けない地域の認知症ケア～若年性認知症についても知りましょう！」講師：医療法人圓生会 松本診療所（ものわすれクリニック）理事長、大阪市北エリア連携型認知症疾患医療センター センター長 松本一生先生 場所：西淀川区医師会館3階 参加者：69名（スタッフ含まず） </td> </tr> <tr> <td>②地域住民向け</td> <td> 【認知症強化型地域包括支援センターの役割と地域での見守りについて】 タイトル：「西淀川区〇〇に～よん参考書の活用について」 団地の総会時に開催 場所：姫島第一住宅集会所 参加者：21名 </td> </tr> <tr> <td>③地域住民と専門職向け</td> <td> 【これからの『備え』とともに今後のことACPを考える～シニア世代から今後のことを語ろう会】 タイトル：「ご自身の今後、大切な人の幸せ いきいき・はつらつ過ごすためには」 場所：西淀川区役所5階参加者：地域住民16名、専門職12名（スタッフ含まず） </td> </tr> </table>		①専門職向け	【認知症講演会】 タイトル：「～コロナに負けない地域の認知症ケア～若年性認知症についても知りましょう！」講師：医療法人圓生会 松本診療所（ものわすれクリニック）理事長、大阪市北エリア連携型認知症疾患医療センター センター長 松本一生先生 場所：西淀川区医師会館3階 参加者：69名（スタッフ含まず）	②地域住民向け	【認知症強化型地域包括支援センターの役割と地域での見守りについて】 タイトル：「西淀川区〇〇に～よん参考書の活用について」 団地の総会時に開催 場所：姫島第一住宅集会所 参加者：21名	③地域住民と専門職向け	【これからの『備え』とともに今後のことACPを考える～シニア世代から今後のことを語ろう会】 タイトル：「ご自身の今後、大切な人の幸せ いきいき・はつらつ過ごすためには」 場所：西淀川区役所5階参加者：地域住民16名、専門職12名（スタッフ含まず）
①専門職向け	【認知症講演会】 タイトル：「～コロナに負けない地域の認知症ケア～若年性認知症についても知りましょう！」講師：医療法人圓生会 松本診療所（ものわすれクリニック）理事長、大阪市北エリア連携型認知症疾患医療センター センター長 松本一生先生 場所：西淀川区医師会館3階 参加者：69名（スタッフ含まず）							
②地域住民向け	【認知症強化型地域包括支援センターの役割と地域での見守りについて】 タイトル：「西淀川区〇〇に～よん参考書の活用について」 団地の総会時に開催 場所：姫島第一住宅集会所 参加者：21名							
③地域住民と専門職向け	【これからの『備え』とともに今後のことACPを考える～シニア世代から今後のことを語ろう会】 タイトル：「ご自身の今後、大切な人の幸せ いきいき・はつらつ過ごすためには」 場所：西淀川区役所5階参加者：地域住民16名、専門職12名（スタッフ含まず）							

今後の課題	・参加した住民から「『備え』について知る機会がなく、誰に相談してよいかわからない」「専門職ってどんな人？」という質問があった。また、住民同士で年配者が若い人の話を聞き、相談にのっていた場面もあったことから、専門職だから、ということではなく、皆がひとりの人として「備え」に興味をもち、話ができる機会を何度ももつ必要がある。そのために専門職が認知症に関するさまざまな知識を深め、地域住民と話せる機会をこれからも増やしていけるよう、工夫をこらし、継続していく必要がある。 専門職については、認知症ケアに関しては知識がさまざまなため専門職向け研修会を開催していく必要がある。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 6 年 7 月 25 日（木）
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	地域住民や専門職への講習会に加え、地域住民から直接意見を聞く機会を設け、一緒に地域の課題を共有するなどの活動を行い、今後も継続して実施されとのことであり期待している。 講習会で活用している「に～よん参考書」については、多職種連携して適宜内容を更新し。普及啓発されている。多職種で課題について共有・検討を行い、来年度へ繋げるため取り組みの振り返り等しっかり行えており、すべての項目において該当している。